

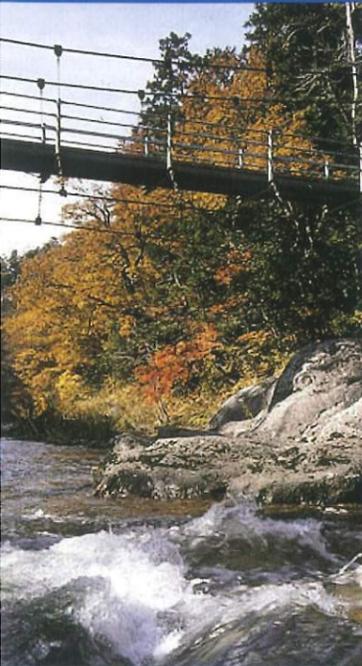
自然 下北半島 祭

観光案内



恐山 (むつ市)

日本三大霊場の一つに数えられる恐山は、862年に慈覚大師が開山したと伝えられている。7月の恐山大祭と10月の恐山秋詣りではイタコの口寄せが行われ、立ちこめる硫黄臭や荒々しい岩場の風景は、地獄や浄土に見立てられている。



薬研溪流 (むつ市)

大畑川の上流に位置する下北半島随一の紅葉の名所で、溪流沿いに整備された遊歩道は、渓谷美を楽しみながら散策する観光客で賑わう。薬研温泉やヒバ原生林、四季折々の自然を満喫できる。

田名部まつり (むつ市)

下北最大の祭りで、お囃子と共に京都祇園の流れを汲む豪華絢爛な5台の山車が市内を練り歩く。最終日の深夜には来年の再会を誓って酒を酌み交わす「五車別れ」でクライマックスを迎える。



大間超マグロ祭り (大間町)

大間のマグロと海の幸を存分に味わえるイベント。中でも築地の職人が特大マグロをさばく「マグロ解体ショー」が見もので、解体されたマグロや特産物の即売が行われる。



菜の花フェスティバル (横浜町)

作付け面積日本一、菜の花が咲き誇る会場で、マラソン大会・菜の花大迷路・菜の花撮影会や特売品即売会、郷土芸能の披露など、沢山のイベントが催される。



尻屋崎 (東通村)

本州の最北東端に位置する尻屋崎は昔から難破岬と呼ばれる海の難所である。先端には明治9年に造られた東北初の洋式灯台である尻屋崎灯台がそびえたち、周辺の牧草地には通年放牧されている寒立馬が見られる。



のへじ祇園まつり (野辺地町)

京都の祇園祭の流れをくむ華やかな祭り。初日の大しめ縄を奉納する「しめあげ」からはじまり、豪華絢爛な山車の運行や御神輿を先頭に大漁旗を掲げた船の海上渡御が行われる。



仏ヶ浦 (佐井村)

風雪厳しい津軽海峡の荒波による浸食で、大小様々な仏像・仏具のような奇岩奇石が形作られた約2kmに渡る景勝海岸。冬の厳しい姿と夏の穏やかな姿の両方を併せ持った大自然の造型が美しい。

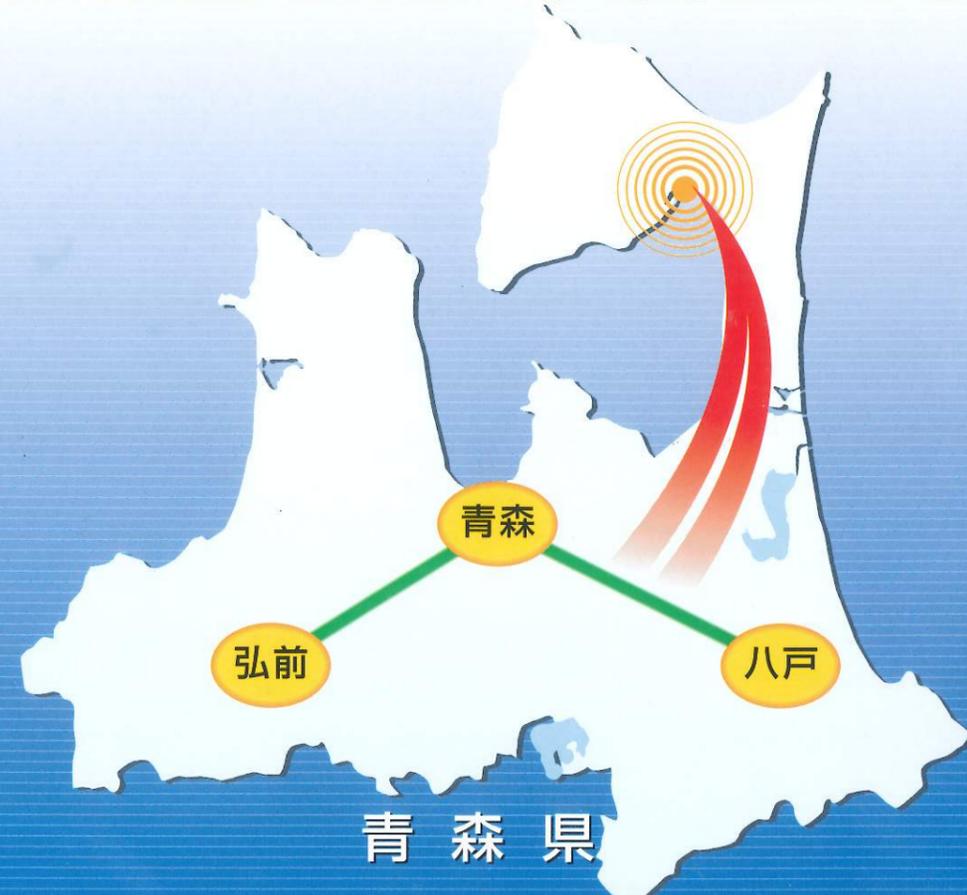
確かな未来と安全、新しい下北路



地域高規格道路

下北半島縦貫道路

SHIMOKITA HANTO JUKAN DORO



青森県 県土整備部 高規格道路・津軽ダム対策課

〒030-8570 青森市長島1丁目1番1号 TEL 017(734)9711 FAX 017(734)8200

青森県 上北地域県民局 地域整備部

〒034-0093 十和田市西十二番町20番12号 TEL 0176(23)4311 FAX 0176(23)4391

青森県 下北地域県民局 地域整備部

〒035-0073 むつ市中央1丁目1番8号 TEL 0175(22)1231 FAX 0175(22)9540

魅力ある豊かな下北ポテンシャルを生み出す高速ネットワーク

■ 広域道路整備基本計画

「広域道路整備基本計画」は、国土全体、地域全体という広域レベルの社会交流を支え、地域の連携を促すネットワークとして高規格幹線道路の整備と合わせ、地域高規格道路網や、これらと一体的に機能する広域的な幹線道路網の整備を計画的に進めるために関連する交通機関、交通拠点（空港、港湾、高速鉄道駅）や都市拠点などの各拠点をはじめとして、国土利用、土地利用等の整合のとれた幹線道路網計画を策定するものです。

道路整備の目標

広域道路選定の基本的考え方

- 広域的には、地方生活圏中心都市、二次生活圏中心都市、産業拠点、観光拠点及び交通結節点を有機的に連結し、高規格幹線道路を補完する道路網
- 都市部については、都市の機能強化を図る環状・放射道路、交通拠点間を連絡する道路

広域道路(交流促進型)の選定の基本的考え方

- ① 広域集積圏相互の連携を強化する道路
- ② 都市の環状道路
- ③ 半島地域の骨格の形成など、地域集積圏内の主要な市町村と核となる主要都市との連絡を強化する道路
- ④ ①～③の道路と高規格幹線道路との連絡を強化する道路
- ⑤ ①～④の道路と空港・新幹線駅・港湾などの交通拠点、または地域振興プロジェクトなどの産業拠点との連絡を強化する道路

地域交流
促進のための
将来目標

- 県都青森市と地方生活圏中心都市間
- 地方生活圏中心都市と圏域内市町村間
- 高規格道路ICへの到着時間

概ね1時間

下北地域における半島性や地理的遠隔性を解消するためには、下北地方生活圏の中心都市むつ市と県都青森市を結ぶ高速ネットワークが不可欠

地域高規格道路 下北半島縦貫道路

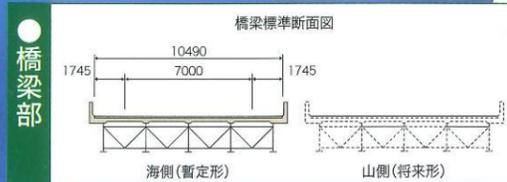
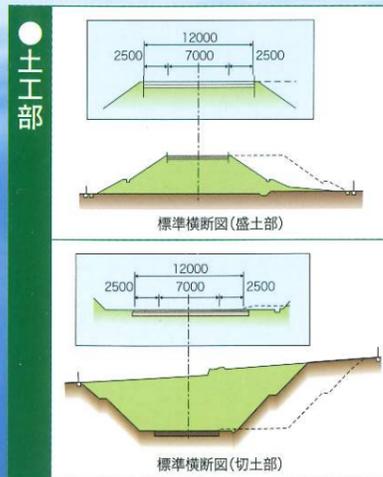
区間及び延長

- 起点 / 青森県むつ市
- 終点 / 青森県上北郡七戸町
- 延長 / 約60キロメートル

道路構造

- 種類 / 自動車専用道路
- 車線数 / 4車線及び2車線
- 構造規格 / 1種2級及び1種3級
- 設計速度 / 100km/h及び80km/h

標準断面図



下北半島縦貫道路の役割

I 地域間の交流を促進します

高速ネットワークの形成により、県内各地方生活圏及び県外地域との交流の活発化や広域交流拠点である青森・三沢両空港、平成22年度に開業した東北新幹線七戸十和田駅へのアクセス強化を図ります。



II 産業・観光分野の発展を支援します

大都市市場等との移動性の向上により、産業立地の促進を図るとともに、地場産業の高付加価値産業への転換の可能性が広がります。

また恐山や仙ヶ浦など観光資源が豊富な下北地域へのアクセス向上及び他地域の観光地との広域観光ルートの形成により、より多くの観光時間を生み出すことが可能になるなど、県内の観光分野の発展への寄与が期待されます。



III 救急医療ネットワークの向上を図ります

高度医療施設が整備されている青森市、八戸市への連絡強化により、救急患者の輸送及び輸血用血液輸送の「大幅な時間短縮」や「救急患者の安静搬送」などが可能となり、下北地域の安全性が高まります。



IV 国家エネルギープロジェクトを支援します

下北地域は現在整備・操業が行われている原子力発電所や原子燃料サイクル施設など、我が国における21世紀のエネルギーを担う重要プロジェクトが進められている地域であり、高速交通ネットワークにより、これらの開発拠点へのアクセス機能を強化します。



(現在の状況)

野辺地・有戸バイパス開通 (L=13.2km)

- H16.11.26 有戸バイパス全線 (L=6.3km)
野辺地バイパス一部 (L=2.8km)
- H17.12.2 野辺地バイパス全線 (L=4.1km)

H23.11 現在
供用率 21%



有戸北バイパス (L=6.3km) 平成24年度開通予定

高速性・定時性の確保

今回の開通区間の現道部は信号の連続により渋滞する野辺地市街地やJR大湊線と平面交差する踏切があるため、通過するのに非常に時間がかかりました。



開通



安全性の確保

県内有数の豪雪地帯である野辺地町の市街地において、路肩への堆雪により、道路幅が狭くなり、走行性の悪化が発生していました。またアップダウンが激しい箇所が存在し、視認性が悪く、冬のスリップ事故の原因となっていました。



開通

